世界的な製造業関連指標の改善や円安進行を背景に、日本株は連日の高値更新

2010年4月2日（金）

第一生命経済研究所　経済調査部
副主任エコノミスト　人見 小奈恵
TEL 03-5221-4523

世界的に製造業の生産活動の改善基調が示され、欧米主要株式市場は高値を更新

中国の3月の製造業ＰＭＩで拡大基調が示されたことなどから、上海株式相場は前日比+1.2%の大幅高となり、2ヶ月ぶりの高値水準となりました。欧州株式相場も、軒並み上昇し、ＤＪ欧州株価指数は約1年半ぶりの高値を付けたほか、ギリシャの株式市場も4日ぶりに大幅反発しました。３月のユーロ圏製造業景気指数は56.6（予想：56.3）と12ヶ月連続で上昇し、06年11月以来の高水準となりました。世界的な需要回復を背景に、欧州製造業における生産活動の拡大が示される内容で、景気回復への期待感が高まりました。

米国株式相場も反発し、約1年半ぶりの高値水準で引けました。雇用や製造業の景況感を示す経済指標の改善が好感されたほか、世界的な景気回復の流れを背景に商品先物価格も堅調で、エネルギー関連株が相場上昇を牽引しました。為替市場ではユーロ・ドルが2日続伸する中、円はドルやユーロに対して下落しました。中でもユーロ・円は127.50円/ユーロと、1月中旬以来の水準まで円安・ユーロ高が進みました。一方、商品先物市場では、原油が08年10月以来の85ドル/バレル台をつけたほか、金や銅などの金属価格も軒並み高となりました。

米週間新規失業保険申請件数は前週比▲6,000件の43.9万件と減少し、4週移動平均は1年半ぶりの低水準となりました。また、3月のISM製造業景況感指数は59.6と、04年7月以来、5年5ヶ月ぶりの高水準となりました。上昇は8ヶ月連続で予想（57.0）も上回りました。内訳をみると「雇用」がわずかに低下したものの、「生産」や「新規受注」が大きく上昇し、製造業の回復基調が示されました。中国、欧州、米国と製造業の生産活動を示す指標が改善したほか、日本でも日銀短観で製造業の回復基調が確認されたことから、世界的な景気回復への期待が高まり、市場ではリスクを選好する動きとなりました。

世界的な景気回復期待や円安を好感し、日本株は景気敏感株主導で連日の高値更新

国内株式相場は、海外株高や円安進行を受けて、堅調に始まりました。中でも原油先物価格の上昇を受けて資源関連株の上昇が目立ちましたが、金融関連株や外需関連株など幅広い業種が買われました。前場では東証33業種のうち20業種以上が高値を更新し、大型株主導で株価指数は徐々に上げ幅を広げていきました。ただし、日経平均株価が11,300円台に乗せると徐々に上値が重くなり、後場は11,300円を小幅に下回る水準で終始小動きとなりました。今晩、米雇用統計を控え、先物の取引高は後場は前場の7割程度まで減少するなど、米株市場同様に投資家の様子見姿勢が窺えました。結局、日経平均株価は終値で小幅ながら11,300円を下回ったものの、連日で年初来高値を更新して引けました。上昇に大きく寄与したのは資源関連株や外需関連株でした。世界景気回復期待や円安進行を追い風に景気敏感株の上昇が目立ちましたが、中でも石油株は9%程度の大幅高となりました。東証一部構成銘柄のうち、日中での高値更新銘柄は300銘柄を超えましたが、そのうち内需関連株中心に反落するものも見られ、景気敏感株を中心とした投資家の物色意欲の強さが感じられました。

今週１週間で日経平均、TOPIXはともに2%を超える大幅高でした。これで日経平均株価は6週連続の上昇となりました。世界的なファンダメンタルズの回復基調を背景に業績改善期待が根強いことが、足元での底堅さにつながっています。今後は高値警戒感から短期的に上値が重い展開も予想されますが、円安基調の継続が日本株にとっては追い風となることも期待されます。　以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。